

安全で快適な播磨地域を目指して

—— 加古川、揖保川における治水事業の推進

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所 所長 富本 和也



1. はじめに

姫路河川国道事務所では、播州平野を潤しながら播磨灘に注ぐ加古川・揖保川の整備・維持管理を行っています。

加古川は、全長約 96km、流域面積約 1,730km² の兵庫県下最大の一級河川です。流域の中流部では、染色・金物・そろばんなどの地場産業が発達し、河口部では播磨臨海工業地帯の一角として重化学工業が盛んです。一方で、近年も大きな洪水に見舞われており、平成 16 年 10 月の台風第 23 号では、戦後最大の流量が発生し、中流部で溢水により大規模な浸水被害が発生しました。

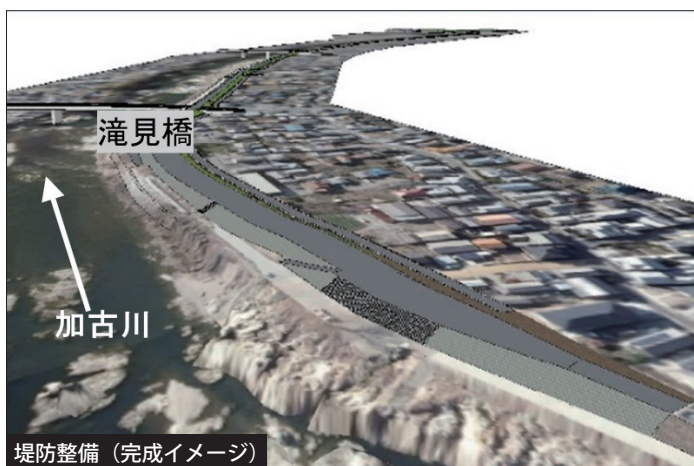
揖保川は、全長約 70km、流域面積約 810km² の一級河川です。流域は、古くから開けた地域で多くの文化財に恵まれており、醤油・素麺・皮革



などの地場産業も盛んです。一方で、過去に幾度も洪水に見舞われており、昭和 51 年 9 月洪水（台風第 17 号及び秋雨前線）では、支川を中心に被害が相次ぎ、栗栖川では、堤防の決壊、溢水、橋梁の流失等が発生し、大規模な浸水被害をもたらしました。

2. 治水事業の推進

加古川では、改修事業として、平成 16 年 10 月の台風第 23 号と同規模の洪水に対する浸水被害の早期軽減を目標に、中流部の滝野地区（加東市）を緊急対策特定区間に位置づけ、「加古川中流部緊急治水対策」を



行っています。同地区では令和7年度の完成を目指し、河道掘削、築堤等を推進しています。同じく中流部の大門地区（小野市、加東市）では無堤区間を解消するための築堤、河道掘削、加古川河口部の高砂他地区（加古川市、高砂市）では河川水位を低下させるための河道掘削を実施しています。

揖保川では、改修事業として、流域で甚大な被害が発生した昭和51年9月の洪水に対する浸水被害の防止または軽減を目標に整備を推進しています。支川栗栖川ではたつの市の市道整備と連携して「栗栖川まちづくり連携治水対策」を行っており、新宮地区（たつの市）で引堤のための橋梁架替を実施しています。なお、支川林田川の中井・末政地区（たつの市）では堰改築・築堤等の整備が

令和5年度末に完了し、現行の河川整備計画に基づく河川改修事業が完了しました。

3. 気候変動を考慮したさらなる対策を目指して

加古川では、近年の水災害の頻発に加え、今後、気候変動の影響により更に激甚化するとの予測を踏まえ、令和6年6月27日に、将来の降雨量の増大を考慮するとともに流域治水の観点も踏まえた河川整備基本方針へ見直しを行いました。今後、さらなる流域の治水安全度の向上を目指して、河川整備計画についても気候変動を考慮した見直しを進めてまいります。

4. かわまちづくり事業の推進

加古川では、河川空間とまち空間が融合した賑わいある良好な空間形成を目指す、かわまちづくりの取組

も進めています。加古川駅から歩いて行ける河川空間を新たに整備し、周辺施設を巻き込む回遊性ネットワークの形成を目指し、「加古川市かわまちづくり」として高水敷、側帯盛土の整備を推進しています。令和7年6月には全国初となる「RIVASITE（リバサイト）」を適用した都市・地域再生等利用区域の指定を行いました。また、安全で利用しやすい親水空間を創出し、新たな賑わいづくり拠点の創出を目指し、「大部・河合地区かわまちづくり」（小野市）として坂路等の整備を推進しています。

5. おわりに

今後も、播磨地域における安全、快適で豊かな社会作りを実現するとともに、地域の発展・活性化を図るため、加古川・揖保川の整備・維持管理を進めてまいります。

